

＜参考資料＞ マコモについて

1. マコモとは。マコモは、水底の泥の中に太く短い根株と根茎をもち、水辺に群生するイネ科の大型多年草で、大きな花穂を出し、開花期は8～10月、草丈1.5～2.0 mに成長する植物で、水質の浄化にもすぐれている。別名を「インディアンライス」とも言い、赤米で稲作以前(縄文時代)には食用になっていたと思われ、仲間にはトウモロコシやサトウキビがある。

2. マコモの生育環境。生育条件としては、水質が多少悪い状態(富栄養)がよく、汚れすぎ、清流では生育しない。土壌は泥地(水田状態)が望ましい。多少の乾燥には耐えるが、3週間くらいで枯死する。冠水したときには、草丈の1/3が水面上に出ていることが必要で、水没時間が長いと死滅する。川に移植したときに、流速が多少あっても、床土が流されない程度であれば差し支えない。

3. マコモの栽培(増殖)方法(図参照)。

(1)種子による方法。秋に種子を採取し、翌年3月苗床に種蒔きする。発芽後草丈20～30cmになったら栽培田に植付けし、ある程度成長したら目的の場所に移植する。この方法は水稲栽培と同じで、多くの苗を育成できるが、水管理が大切で手間がかかる。

(2)(3)地下茎を利用する方法。地下茎(根茎)を採取し、ぶっ切りにし苗床で育成し、草丈20～30cmになったら(1)と同じ方法で目的の場所に移植する。また、ぶっ切りに

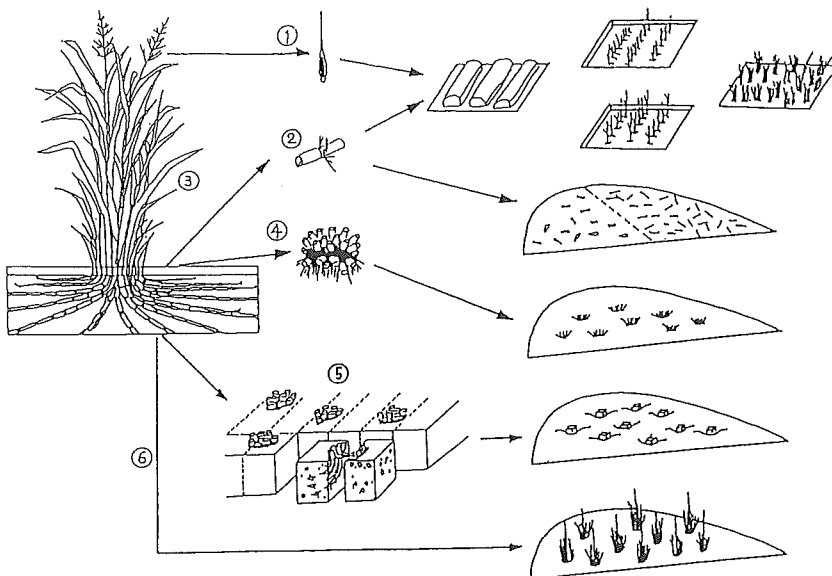


図1. マコモの栽培(増殖)方法。図中の番号は本文中「3. マコモの栽培(増殖)方法」の番号に対応する。

した地下茎を直接目的地に植付けることもできるが、水位を一定に保つことが必要である。

(4)「浮マコモ」を利用する方法。水面に浮遊している「浮マコモ」を集め、直接植付ける。数量が少ないときには、(2)の方法で増やすことも可能と思われる。なお、「浮マコモ」とは、ハクチョウが地下茎を掘り起こしたとき、根株だけが残り水面に浮遊しているものである。

(5)株分けする方法。成長した根株の部分を、ブロック状に切り起こし、そのままの状態に植付けする。なお、ブロックの大きさは幅25cm、深さ15cm程度が望ましい。

(6)直接移植する方法。成長したマコモを掘り起こし、目的の場所に移植する。ただし、数量の問題がある。

マコモの増殖方法は以上のとおりであるが、河川の水際にマコモを生えさせる有効な手段は(6)～(1)の順番である。植付け時期は、いずれも場合も丈夫な苗または根株を安定期(3月中)に移植予定場所の水位を測定し、植付けの高さを決めてから(水位を一定に保つため)移植することが大事である。ただし、(5)、(6)の方法は、成長したマコモを採取することになり、自生のマコモが減少している現在では問題が残る。